

ホセ・カレーラス氏 との出会い



永山 治氏
中外製薬
取締役社長

世界三大テノールの一人であるホセ・カレーラス氏による日本で初めてのチャリティーコンサートが1993年に東京・王子で開催された。カレーラス氏は1987年に急性リンパ性白血病を患い、当時最先端の骨髄移植治療を受けた後、すぐに歌手として復帰したことはよく知られている。カレーラス氏は自らの命を救ってくれた医療に報いるべく、1988年には母国スペインに「国際白血病財団」を設立した。毎年世界各国でチャリティーリサイタルを開催し、得られた資金は財団を通じて白血病治療推進のために提供してきた。日本の骨髄移植推進財団の関係者がこの事実を知り、手紙で日本におけるチャリティーリサイタルの開催要請をしたところ、カレーラス氏は快諾し、開催の運びとなった。

一方、中外製薬は1991年に、白血病などに用いられる治療薬として日本で初めて創出された遺伝子組み換え製剤「ノイトロジン」を発売していた。1997年、リサイタルの協賛要請がわが社に持ち込まれ、社会貢献活動の一環として、中外製薬単独での特別協賛を引き受けることと



2001年11月、チャリティーリサイタル後にカレーラス氏と

なった。以来、「いのちのボランティア」チャリティーリサイタルへの協賛を継続している。1997年のリサイタルには、ご存命であった高円宮殿下と妃殿下ご臨席の榮譽にも浴した。日本に多くの熱狂的な女性ファンを擁するカレーラス氏は毎回誠実にその美声を披露し、アンコールは常に30分以上におよび、時には日本語の歌も歌うというサービスぶりに感激したファンが帰りの車寄せに列をなすことになった。

特に、1997年のリサイタルの折に開かれた記者会見でのこと。カタルーニャ出身のカレーラス氏に記者の一人がスペインとカタルーニャの関係について見解を求めたところ、毅然とした態度で「スペイン国がカタルーニャに敬意を払う限り、スペイン国民としての誇りを持ち続ける」と答えたことが印象的であった。礼儀正しく、穏やかで、誇り高いカレーラス氏がいつまでも活躍されることを願ってやまない。